



290

若竹だより



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

新園長着任のご挨拶

宮竹恒

4 月から野田大燈園長の後任として、若竹学園の園長を務めさせて頂くことになりました宮竹恒でございます。大自然の中で夢を描かれ、創立された前園長の使命と子ども達の命のバトンを引き継がせて頂きます。

新園舎は、桜色に輝き、春の息吹と共に子ども達の未来を祝福しているようです。

3 月に学園を巣立った園生は、増改築と共に成長し、新たな伝統を残してくれました。子ども達の成長した姿を見る時、この 1 年が子ども達にとって貴重な経験がであったと感じました。

学園は、増改築を終え、新たな出発を迎えますが、これもひとえに子ども達の成長を願い温かい御支援を賜りました支援者の皆様方の賜物と感謝いたしております。

新園舎を最大限に活用し、子ども達一人一人の個性を理解し、子ども達の課題に寄り添い、共に考え共に喜びあえる学園を創ってまいります。

若竹学園にとって、大きな節目となる今年度、職員と一緒に子ども達の幸福と成長の為に、力を尽くしてまいりますので、変わらぬ御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

若竹学園長退任の辞

野田大燈

雪が多くて各地で様々な被害をもたらせた時節も移り変わり、桜の開花から早くも青葉も目に優しい四月となりました。

昨年来の増改築で落ち着かなかった学園は桜の満開の中で落成式を迎えられました。

完成して真新しい若竹丸に乗って平成 30 年度の新たな出航です。

私は学園の皆さんが元気で楽しく過ごせるお手伝いが出来たので、若竹学園園長の責務を解いて頂いて、新たな若くて実行力のある新園長さんにバトンタッチさせていただきます。

私は若竹学園の創立者でもありましたので、約 20 年前にこの山をブルドーザーで切り崩して敷地をつくり、若竹学園を設立しました。

大きな建設機械のブルドーザーを運転しながら、新たに完成する学園に入所して来る君たちの顔を想像しながら毎日毎日楽しく作業をしました。

学園の敷地が完成した時に、記念として高さ 1 ㍎ほどのクヌギの樹を植えました。

20 年が経過したクヌギの樹は大きく成長してじっと君たちを見守ってくれています。クヌギの樹に負けない成長をして下さいね。私もクヌギのように何時も君たちを見守っています。 一丁一

祝！お引越し完了！

5 月から行っていた建物の工事が無事に完了し、3 月半ばより引っ越しして生活しています。男子が 2 ユニット、女子が 1 ユニットとなり、2 日かけてそれぞれ荷物を運び込みました。

広くなったふれあいルーム (テレビを観たり漫画を読む談話コーナーのような所) は、どのように使っていくのか考えているところです。



部屋は一人部屋になり、自分の荷物を運びこみました。

新しい建物ができ、きれいな場所でくらすことができるとてもうれしいです。それと、建物がたつのを近くでみる事ができてよかったです。(中 2 女子)

また、今回増築棟の屋上に、運動スペースを作りました。



屋上は、パレーもできるし、ネットをのければドッチボールもできます。(中 1 男子)

工事をしている間は、いろいろと不便な事もありましたが、間近で大型の重機を見たり、建物が建っていくところを見る事が出来ました。

お世話になった方々、ありがとうございます。大切に使いしていきたいと思います。

ホワイトデー！！

先月は女の子たちがバレンタインデーにおやつを作っていましたが、今月はホワイトデーに男の子たちがおやつ作りをしました。今回は、シャーベットを作りました。

一人ずつ袋にヨーグルトとブルーベリージャムを入れて混ぜます。あとは冷凍庫に入れて、おいしく固まるのを待つだけです。



夕食の時に出示してもらっておいしくいただきました。ごちそうさまでした！

ヤギ小屋の棟上げ

学園でもお世話をお手伝いしているヤギたちですが、新たに小屋を建設中です。先日、棟上げが行われました。



みんなは、どうぶつが好きな子たちばかりでお世話してくれたりしてやぎもスクスク大きくそだっています。ときには、やぎが、だっそうしたりしてみんながなんとかつかまえてハウスにはいつてくれていたりもしています。もうすぐあたらしいやぎごやがたちます。みんなは 4 月までまちどおしいみたいです。(中 3 女子)

やぎごやができるようでとてもうれしいししゃしました。(小 5 男子)

卒業証書授与式・卒園式

3 月 26 日、卒業証書授与式、卒園式を執り行いました。

保護者の方々はもちろんのこと、お世話になっている原籍校の先生方、児童相談所の方々、学園でお世話になっている方々

に見守られ、厳かに行われました。

今年は、今治 FC の代表をされている岡田監督からもビデオレターをいただき、励ましていただきました。



在園生からの送辞や卒園生からの答辞は、園生達に考えてもらっています (右参照)。

今年の若竹太鼓は、新調した衣装を身につけて、在園生全員で披露しました。



最後は立食パーティで別れを惜しみました。

卒園生のみんなが、新しい場所で元気に頑張ってくれればと思います。



卒園式では、今まで感謝をしていた人たちや助けてもらった人たちと別れる時がきてすごくかなしかったけどさびしさもありました。(中 3 女子)

送辞 (一部抜粋)

卒園生のみなさん卒業おめでとうございます。時には喧嘩もしたけど、辛い時には相談を聞いてもらったり、元気づけてもらったことを考えると、一緒に頑張ってきたんだと思いました。私達も卒業される先輩方に負けないようにこれからもがんばります。これから先、つらい時や苦しい時があるかもしれませんが。その時には、自分と向き合い、あきらめずに頑張ってきたことを思い出して下さい。皆さんならきっと大丈夫です。多くの経験をしてきたことに自信を持ってこれからの道を進んでください。皆さんと別れるのは本当に寂しいですが、卒園生のみなさんが健康でいられるように心から願っています。これからの活躍を応援しています。

答辞 (一部抜粋)

今まで一人で過ごすことが多かった私にはどの行事も新鮮で数えきれないほどの学びや気づきがありました。どの行事にも共通して言えるのは仲間の存在の大切さです。仲間からの励ましや支えがあったからこそ途中で投げ出さず最後までやり遂げる事ができたのだと思います。一人では決して味わえないような達成感を感じることが出来たのも仲間のお陰です。園生の皆さん、学園生活は、一日一日が長く感じられ辛く逃げ出したくなる時があると思います。また自分自身や相手と向き合った時、他人を信じることができず苦しくなる時があると思います。だけど一人で抱え込まないで下さい。困ったときは誰かに相談して下さい。相談していくことで信じようと思える人が必ず出来ると思います。これから先困難にぶつかることが多々あると思いますが必ず乗り越えていきます。皆と出会えたこと学園で過ごしたことがきっと私たちの力になると信じています。

落成式・祝賀会準備

増築・大規模模様替え工事を終え、3 月 30 日に行われた落成式、祝賀会ですが、子どもたちにもいろいろと準備を手伝ってもらっていました。式後にお配りしていた品物のひとつ、ハーブ石鹸は、子どもたちが作りました。石鹸の素を溶かしてローズマリーのアロマオイルを加え、乾燥したローズマリー、もしくは発酵した竹の粉を入れて固めました。カラフルな色や、2 層構造にしてみたりして工夫しています。同封しているメッセージカードも、一枚一枚、子どもたちが何を書こうか考えながら、一生懸命書きました。



また、祝賀会で披露する太鼓の練習もがんばりました。いつもお世話になっている和太鼓集団満天さんに、今回の演奏にもご協力頂きました。以前作って頂いた若竹讃歌に合わせた演奏もお披露目します。

子どもたちもがんばった落成式、祝賀会の様子は、来月号にてお知らせします。



～御寄附ありがとうございました～

- 岡野様 1 万円
- 高岸工務店様 1 万円
- 匿名 5 千円
- 高松市共同募金会様 洗濯機・掃除機 4 台

3 月の行事

21 日	ホワイトデー食育(男児)
24 日	ヤギ小屋棟上げ
26 日	卒業証書授与式、卒園式
30 日	落成式・祝賀会

在籍人数 平成 30 年 3 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男 子	小学生	4	1	5
	中学生	5	3	8
	その他	1	0	1
	計	10	4	14
女 子	小学生	0	0	0
	中学生	4	1	5
	その他	0	0	0
	計	5	1	6
合計		14	5	19

編集後記

退園式を終え、無事、新園舎の落成を迎えることができました。

新園長の元、新たな気持ちで日々、邁進していきます。

事務員 亀山 幸

第 290 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈

平成 30 年 4 月 1 日（毎月 1 回 1 日発行）

四恩の里 NO.378 号付録 平成 2 年 2 月 8 日第 3 種郵便物認可